

学区探訪

二・二十七
郷土探訪
八十一号

大門学区の工業

昭和六十二年度の工業統計調査によって大門学区の工業について調べてみました。学区の工場数は七十六。従業者数は千百六十九人。製造品出荷額は二百十億円です。この調査で調べられたのは従業者四人以上の工場です。学区には七十六の工場がありますが、これは岡崎市内では五番目に工場の多い学区となります。この統計資料を見ただけでは、どんな種類の工場が多いのか

その特徴をつかむことができませんでした。下大門に工場がたくさんあることはみなさん気がついていることでしょう。旧岩津地区の工業について表にしてみました。

	工場数	従業者数	製造品出荷額(億円)
大門	76	1,169	210
大樹寺	43	675	65
岩津	10	104	109
細川	18	515	104
恵田	7	64	2
奥殿	16	145	16
全市	1,392	33,463	8,802

学区探訪

二・二十八
郷土探訪
八十二号

大門学区の商業

昭和六十年年度の商業統計調査によって大門学区の商業についてまとめてみました。商店の総数百十七店は岡崎市内で十五番目です。商店数が一番多いのは連尺で六百八十店、次が梅園で三百二十五店。三番目が羽根と六名で二百七十八店。次が根石で二百七十三店。広幡・三島・矢作東・井田・大樹寺・福岡・愛宕・美合・岡崎の次が大

	商店数(店)	従業者数(人)	年間販売額(万円)
総数	117	986	4711670
卸売業	51	564	3766577
小売業(除飲食店)	66	422	945093

小売業の中で一番商店数が多いのは、飲食料品小売業で二十三店あります。小売業の中で年間販売額が一番多いの、自動車・自転車小売業で三十五億五千二百一十万円です。
(今年度の学区探訪はこの八十二号で終りにします。)

学区探訪

九・二十一
郷土文化
八十三号

水郷川

今年の学区探訪を始めます。

水郷公園の池から南へ流れ出る二百メートルほどの川に「水郷川」という名前がつけられています。本日、大門小の六年生がこの川を清掃します。

この川は昔、「石橋川」と呼ばれていました。幅四十センチ長さ二メートルほどの石四本で作られた石橋がかかっていたからです。この川は灌漑用水であり、ユニチカ

の東で早川に合流するまでに、上大門・中大門・下大門・大門新田の田をうるおしていました。当時は合流点にいたるまでに数か所の「せぎ」がありました。「せぎ」というのは川をせき止める装置で、川を止めて水位を高くして小さな水路へ水を流して田へ引くのです。

池から出てすぐの所にあつたのを「上の大せぎ」といいました。上大門の人が管理していたのですが、日照りの時などここをせぎつてしまうと下の人が水不足になって困るので、水争いになることもありました

学区探訪

九・二十二
郷土文化
八十四号

石橋川

水郷川は昔、「石橋川」と呼ばれていました。この石橋川は水量豊富で清流が流れていました。そのため、上大門ではネギなどの野菜洗い場として使われていました。

ネギ・イモなどの野菜の他に、各家庭の主婦が洗濯をする場にもなっていました。電気洗濯機が普及する昭和四十年ころまで、ここで洗濯をする姿を見ることができたそうです。朝、畑へ仕事に行く時に洗濯物を

入れたカゴを持った農家の主婦が石橋川に寄ります。洗濯物を水にひたして川辺に置いておきます。そして十一時ごろ屋敷の支度到家へ帰る前にもう一度石橋川に寄り、洗濯をしてから帰って洗濯物を干しました。ですから昭和三十五年ころまでは嫁をもらう時、上大門には洗濯をする川があるから嫁入り道具に洗濯機はいらない、と言っていました。

たらいで洗濯をするとすすぎがたいへんですが、石橋川は水量があつてどんどん流れるのですすすぎもやりやすかったようです。

学区探訪

九・二十五

八十五号

大門池と石橋川

今、水郷公園にある池は昔、「大門の池」と呼ばれ、今の池よりもずいぶん大きかったそうです。八反の大きさと言われていたそうですから、約八千平方メートルもあったことになります。矢作川の水が湧き出てくるので、冷たくてきれいな水でホテイアオイがたくさん群生していました。池の中にも湧水がありましたし、堤防から湧きでた水が川になって大門池へ流れこんで

いました。今も堤防と水郷公園の間にその川の跡が残っています。

この大門池の豊富な水が流れ出たのが石橋川ですから、このきれいな川は上大門の人たちが洗濯に集まる川になったのです。

しかし今は矢作川の水量が減り、河床も下がってしまったので水が湧いてきません。そのため大門池は小さくなってしまいました。そして大門池はきれいな矢作川の湧き水ではなくなり、区画整理のころからポンプで汲んだ水になりました。水量の減少により石橋川も水がなくなってしまう

学区探訪

九・二十六

八十六号

大門のネギ洗い場

今、水郷川と呼ばれている川には昔、上大門の人たちが共同で使っていたネギ洗い場がありました。大門池から流れ出る豊富な水を利用したものです。大門はネギの産地ですから、主にネギを洗っていたのですが、その他にもイモなどの野菜を洗う共同洗い場になっていました。しかし、水量が減ってしまったので、昭和五十年ころに池から十五メートルほど下がったところに井

戸を掘りました。町内の農家がお金を出し合って作った井戸です。モーターで動くポンプがあり、利用したい時にはいつでもスイッチを入れて使えるようになっていました。また、区画整理の時にそれまで土手に石を置いた自然の洗い場だったのを、コンクリートで階段を作り、水がたまるような施設まで設けました。こうして新しくなったネギ共同洗い場も昭和五十年代の末には使われなくなってしまいました。今は水郷川として生まれ変わったために洗い場の跡はなくなっていました。

学区探訪

九・二十七
郷土資料
八十七号

水郷公園の井戸

水郷公園の隅に直径一メートルぐらいの大きなマンホールがいくつかあります。植木におおわれてしまっているのがつかない人が多いと思います。これは、大門・大樹寺へ水を供給している井戸にかぶせられたマンホールなのです。井戸の中に水中ポンプがあり、水を汲み上げています。そして、各町内へ向けて地下に配水管が埋められているのです。水郷公園の西側、グライダ

ー倉庫の前にこのポンプの電気操作をする操作ボックスが並んでいます。右から下大門・中大門・大樹寺・上大門・大門新田と五つ各町内ごとにあります。それぞれの町内が管理しているのです。

矢作川からの湧水がなくなったために区画整理の時に作られた灌漑用水としての井戸ですが、大樹寺・下大門の人にとっては遠くて管理がたいへんだし水量も足りません。そのため最近自分の町内に新しい井戸を掘りました。そこで二つ井戸が空いたのでその水を流して水郷川ができたのです。

学区探訪

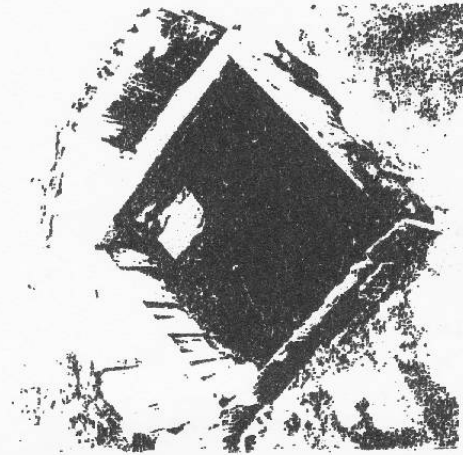
九・二十八
郷土資料
八十八号

矢作川河床遺跡

建設省護岸工事に伴う矢作川河床遺跡大門地区の調査が昭和六十一年十一月に行われました。そして六十三年に調査報告が出されています。

大門地区は、矢作川左岸の河岸段丘と右岸の台地とに挟まれた低湿地にあり、八剣神社の北、堤防より約六十メートルの位置です。大門遺跡として知られ、河道中には井戸と考えられる遺構が三基確認されてい

ます。この井戸状の遺構は、一辺約一メートルの方形で何らかの貯水施設であったとも考えられます。また、遺構周辺からは弥生時代以降の遺物が採集されています。写真撮影後、遺構は抜き取られ用材および出土遺物は岡崎市郷土館に保管されています



井戸状遺構 (南西より)

矢作川河床遺跡 (I)
建設省護岸工事に伴う
大門地区・渡地区の調査
より

学区探訪

九・二十九

郷土探訪

八十九号

八剣神社

秋祭りの季節になりました。学区内の神社について調べたことをまとめてみました

上大門にある八剣神社は、祭神が日本武尊など七つの神々。今から千八十九年前の昌泰三年（九〇〇）九月十三日、紀伊国熊野に鎮座する大門神社の御神霊が剣山の宝剣と共に降臨したのが始まりで、八剣大明神と号し地名も大門村と言われるようになりました。

後、三河守護として明大寺に居住した足利尊氏は八剣神社への信仰が厚く祭神料として社領七十石を寄進しました。三鹿の渡しの伝説や境内にある足利尊氏石宝塔との関わりが考えられます。

後、江戸時代に至り、矢作川瀬筋堀替の際に四十石余りが川敷地となってしまったので慶安元年（一六四八）徳川家光から改めて二十九石六斗の朱印を寄納され、その後代々徳川家より朱印を賜ったということです。八剣神社は足利家ばかりでなく徳川家ともつながりの深い神社なのです。

学区探訪

九・三十

郷土探訪

九十号

八剣神社の薬師堂

八剣神社には鎌倉時代の典型的な形式を持つ懸仏があります。この観音像の背面に墨書の名があり、それによると鎌倉時代の大門には「大門寺」という寺院が存在していたらしいのです。病平癒の願いが書かれているので薬師信仰の寺だったのでしょう

村の古老に話を聞くと、終戦後まで八剣神社には、かやぶきの薬師堂があったそうです。場所は足利尊氏石宝塔の真西です。

老朽化したため解体してしまい、御神体だけは八剣神社に合併しました。ですから八剣神社には、今でも薬師如来の坐像があります。桧材の寄木造で高さ四十二・五センチ。鎌倉時代末から室町時代初期のころに作られたと考えられています。この薬師如来坐像はおそらく大門寺の仏像であったと思われます。すると大門寺は八剣神社の神宮寺であって、終戦後まで残っていた薬師堂は大門寺の名残であったのでしょうか。薬師堂は、八剣の本殿ぐらゐの大きさがあゝり本殿と重なるようにしてあったそうです